

はじめに

皆さん、こんにちほ。免疫学者の小安重夫です。複雑に見える免疫をなるべくわかりやすくお話しして、免疫に少しでも興味がある人に免疫のおもしろさを理解してもらいたいと思い、一九九七年に羊土社から『免疫学はおもしろい』という本を出版しました。幸い多くの方に読んでいただいたので味を占め、二〇〇八年に『免疫学はやっぱりおもしろい』という本を出版しました。こちらも予想以上に多くの方に読んでいただきました。さすがにそれ以上は悪のりが過ぎると思っていたのですが、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを前に、感染症と戦う免疫のことをもっと皆さんに知っていたただかなくとはいけないという思いが募り、今一度筆を執ることにしました。この二年間、いろいろな方から新型コロナウイルスのこと、ワクチンのことを質問されました。さらに、小学校や中学校でも授業をしましたが、免疫のことをわかりやすく説明するのは口で言うほど簡単ではありませんでした。かつて河合隼雄さんと梅原猛さんが書かれた『小学生に授業』（朝日文庫、二〇一三年）という本には、「小学生に授業ができないようでは大学の教授は務まらない」という一文があります。この本は、私が小学校で授業をする際にいろいろと考えるきっかけになりました。これらの経験を活かし、さらに多くの方に読んでいただきたいと思い、羊土社からのお題である「小説みたい楽しく読める」という高いハードルを自らに課してみました。ただし、正確

な記述には努めなければなりませんので、やはり難しいところはあるかもしれませんが。評価は読者の皆さまに委ねます。